

読者からのお便り

幾つもの表情を映し出す仏像。タイ国に入国し、私は、僧侶として、自分の心を仏像に映し出し、お勤めをしています。心を映し出す事によって仏像から仏様へ変わる様な気がします。第七回育英生としてタイ国に派遣され、テーラ・ヴァダの一員となり、少しづつ仏像に対する考えが変化している様です。この様な機会を与えてくださった方丈様、又、海外留学僧派遣育英会の皆様へ感謝の意を申し上げます。皆様のご期待に応えられるよう、精進并道いたします。

雨安居 ワット・パクナムにて

水野 克彦 百拝

いつも仏教を通じて海外との交流に御努力なされ、尊い事と感謝申し上げます。特に海外に在って、

何かとサポートを受ける喜びは、いつまでも心に消えぬものがあるように存じます。成寿十七巻有難うございました。

皆々様のご健勝を祈りあげます。

東京都 真野 龍海

成寿山善光寺開山棟庵白純大和尚十三回忌報恩の仏事を勤修されました写真を見し、大圓方丈と、岩本昭典老師の間には、遺風烈々として感、新らたなるものがあります。大圓方丈の長年の誓願である学問が自分の研修だけでなく、国境の枠を超えて未来につないでいく努力はすばらしい。九カ国三十四人派遣したこの無尽の花が開花されると思う。もっと日本の国民一人一人がめざめる時である。只今、写真と方丈の御文章を拝見して一文字の中に滲み出ています。時節柄、お身体にご自愛して下さることを祈念申し上げます。

東京都 林 博明

育英生曹良淑さんの論文を読ませて頂き、自分を反省して慙愧千万に思っております。九月は「反省の月」とか申します。開枕の間近い人生になつて警鐘を打たれた感です。有難うございました。

福井県 木崎 浩哉

其の後もお元気で御精進、御活躍の様子にて心よりお喜び申し上げます。本日は成寿を御恵送頂きまして誠に有難うございました。立派な写真、充実した内容の編集に深く感銘を覚えております。貴師の御活躍を見るにつけ、地方の寺で唯、葬式、法要の司式のみで明け暮れている田舎の沈滞した寺院の姿にはがゆい思いを致しております。余り求道、精進の熱意を持たない檀信徒にも原因もあると思ひますが、今後共御活躍の程お祈り致します。

山口県 松岡 陸雄

毎号新たな貴山のご発展の記事に接し、益々感銘致しております。特に今回はご開山様のご生前を偲び感無量なるものがありました。拙寺へも再度ご来駕いただいております。貴老師には何卒ご法体ご自愛專一の上、ますますご活躍の程をお祈り申し上げます。

千葉県 椎名 宏雄

方丈さんの汗の匂う大事な成寿拝読させて戴きました。特に若い六人の方の、論文は何回も読みかえし若人のたくましさを、羨ましいかぎりです。と共に早くも七年になるのだから、第一回め派遣僧（仏教興隆に尽くされた方）卒論近況も知りたかった。先のない年寄りのたわごとな。何はともあれ益々の御繁栄心から喜んで居ります。

横浜市 伏見 暲

この度は成寿十七号をご恵送下さ

れ、誠に有難うございました。先生のすばらしい世界観にもとずく、仏教徒としてのご努力は、広く海外に根付き、必ず花開くことと存じます。益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

参議院議員 齋藤 文夫

成寿十七号をお送りいただき有難うございました。いつも鞆に入れて車中で読んでいる主人でしたので早速、仏前に供え報告しました。亡き主人に代りまして拝読させていただきました。益々御活躍の方丈さまの御姿を誌面でお目にかかれて涙が出てしまいました。遠いお方になりませぬ様みちのくの地よりお願い申し上げ御礼の挨拶とさせていただきます。

岩手県 西館 絹子

方丈様にはビルマ訪問予定のこと喜んで居ります。日緬親善を深め又、

ビルマ大陸に眠る十八万の英霊が喜ぶ事と存じます。私事で恐縮だが昭和十七年よりビルマ戦場に二十二年六月まで駐屯した。結果は悲惨な敗北であった。ビルマ派遣軍三十万、其の内十八万戦死した。戦跡を巡拝して激戦地跡より石を持ち帰って供養塔を建てた。

戦友よ安らかに：合掌

横浜市 大場 貞蔵

いつもながら仏教興隆の為に御努力されているお姿を思い浮かべ、心から合掌の念に絶えません。私如きに対しまして、お心を掛けられ毎回「成寿」を御送り下され、有難く拝読させていただいております。善光寺様に対し、なんのお力にもなれず、心苦しく思つて居ります。今日は母の十三回忌を無事に済ませて頂きました。お寺にも多少の供養を致しました。ふと思ひ付きましたのは、善光寺様の事、日頃の御親切にはとう

てい足りませんが、少々の献香料を御送り致し、日頃の御恩報じと致し度く存じますので御笑納下さい。末筆ですが今日の仏教界に大切なお方です。御自愛下さいませ。寺門の発展をお祈り申し上げます。

栃木県 鶴田 力

袈裟というとお坊さんの制服の一つ位にしか理解しておりませんでした。方丈様のご教示により袈裟には深い意味がこめられていることを知りました。ひとくちでいうと正伝の仏法を興隆し世界の衆生をすくおうという誓願がこめられているといつていいでしょう。それゆえこのたび方丈様が世界の国々へ袈裟をおくるという大誓願をたてられたことは、海外留学僧派遣と同じく仏法興隆のためにつくすということなのです。

(中略)

方丈様は海外留学僧派遣によって仏法のための人作りを、袈裟によつ

て心の浄化、欲望の浄化を実践されました。新聞によるとローマ法王ヨハネ・パウロ二世は世界八億のカトリック教徒に回勅を発表し、先進資本主義国家のおごりと功利主義の傾向を批判しきびしく戒めました。

方丈様はもつと広く世界のひとびとと五十億二千四百万人へ呼びかけたのです。ただ呼びかけたのではなく袈裟をおくるという実践を通して世界のひとびとの心に訴えたのです。釈尊は「悟りへの実践」によって仏法をひろめ衆生をすくおうとしました。この明快な実践の奥に深い真理があるので、ただ宗教哲学や難解な教義を説いて回られたのではないと思います。方丈様もつねに釈尊と同じく明快な実践、即ち海外留学僧派遣、袈裟を世界へおくる行動によって仏法興隆のために尽力されているのです。しかも欲望の否定という暗い陰気な教えではなく、欲望の浄化という明るく肯定的で向日性の教え

を実践を通して示しております。(中略)

生きている以上生存欲はあります。といって自分の生存欲のためにまわりを侵略することは許されません。侵略は汚染された欲望でありこれを浄化することで和をもたらすことができるでしょう。方丈様はローマ法王にさきがけて、仏法興隆と世界平和のために聖なる実践をはじめられました。われら檀信徒は方丈様を誇りとして、自分のできる範囲で協力させていたがこうではありませんか。袈裟を身につける仏教徒の初心に立ちかえって、方丈様をおたすけしていきたいとせんえつながら思うものです。

横浜市 赤間 義徳